



光干渉断層法を用いた診断、治療応用に積極的に取り組む当科。日本に数台しかない機器を駆使し、心血管疾患の発症前予測や病気の進み具合をより高い精度で掌握。患者の状況に応じた最適な治療に役立てている。



奈良県吉野の出身。当院へ着任するまでのほとんどを奈良県で過ごされたそう。「岡山には家族と一緒に来ました。週末には吉備津神社や備中国分寺、鬼ノ城などをよく探訪しています。備中国分寺あたりは法隆寺など、奈良によく似た風景で家族もお気に入りです」。現在54歳、「晴れの国岡山」での生活を満喫されている。

上村 史朗 教授
Shiro Uemura
■認定医・専門医・指導医
日本内科学会認定内科医・指導医、日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会専門医、日本心臓病学会 FJCC、日本透析医学会専門医、日本高血圧学会指導医
■専門分野
循環器疾患全般、虚血性心疾患、カテーテルインターベンション



循環器内科を支える精鋭メンバーたち。カンファレンスには心臓血管外科のメンバーも参加。医師、看護師、薬剤師、管理栄養士など、それぞれの専門家が同席する。生活習慣を含めた総合的治療が当科の強みだ。



医療 >>> vol.42
最前線
循環器内科

Report!

豊富な経験値を 多くの患者さんに活かす

by 川崎医科大学附属病院

日本人の死因の約三分の一を占める循環器疾患。

「循環器疾患は高血圧や糖尿病、脂質異常症など、いわゆる生活習慣病を原因とする疾患で、長い潜伏期間の後、突然発症し、現在、死因の約三分の一を占めています。特に高齢化が進む現在で、冠動脈疾患は男性よりも女性に要注意。実に六五歳以上の女性の死因第一位は心臓病なんです」と語るのは循環器内科の上村史朗教授。心臓カテーテル治療や光干渉断層法を用いた心血管イメージング分野の専門医として当科を率いている。

現在、当科では急性心筋梗塞、狭心症、心不全など、緊急を要する疾患への急性期治療を積極的に実施。患者の状況に応じて心電図・心エコー図・冠動脈CT・心臓核医学・心臓カテーテルなどの検査を行ない、チームとして診断・治療に取り組んでいる。なかでも心臓カテーテル治療において、上村教授は血管内イメージングを取り入れた精度の高いカテーテル治療を実践し、その豊富な経験値は多くの患者にフィードバックされている。

「心臓カテーテル治療には、二五年前から取り組んでいます。二〇〇一年（前任の病院）からは責任者として、年間にカテーテルによる診断を〇〇〇例、同じく治療を四〇〇例以上、トータルで、これまでに五〇〇人以上の患者さんを治療してきました」と語る上村教授。

社会の高齢化とともに心血管疾患の患者数は増え続けている。「異変を感じたら我慢せず早く受診してください。循環器の病気は治療を開始するまでのスピードが大切です」と注意を促す。

二四時間体制、心臓血管外科との円滑なチーム医療を実現。

当科の特長、患者にとってのメリットを上村教授はこう考える。「当科の強みは、二四時間体制での迅速な対応、的確な診断に基づいた最適な治療、そして外科との密接なチーム体制です」。

その言葉どおり現在、循環器内科の病棟は心臓血管外科と同じフロアにあり、「ハートチーム」として、循環器内科医と心臓血管外科医が協力して治療方針を決定している。両科のスタッフが互いに患者の状況や治療情報を共有することで円滑なコミュニケーションに基づいた効果的な治療体制を構築している。

ハードソフトともに充実した治療体制を誇る当科。現在、上村教授の働きかけで「循環器内科ホットライン」を院外向けに開設。これにより、急な対応が必要な患者に対する受け入れ時間の短縮、迅速な診療を実現することができるようになった。

最後に医師としての思い、「『専門家として大切なのは、続けること。『継続は力なり』を信じてやってきました。大学病院という思われた環境で日々、いろいろな経験を積み、そこから得た知識と技術を次の患者さんにフィードバックできたらと思っています」。終始笑顔が絶えることのない上村教授。患者を包み込む懐の深さ。医師としての責任と矜持が全身から伝わってきた。

お問合せ
川崎医科大学附属病院
086-462-1111
<http://www.kawasaki-u.ac.jp/hospital/>